

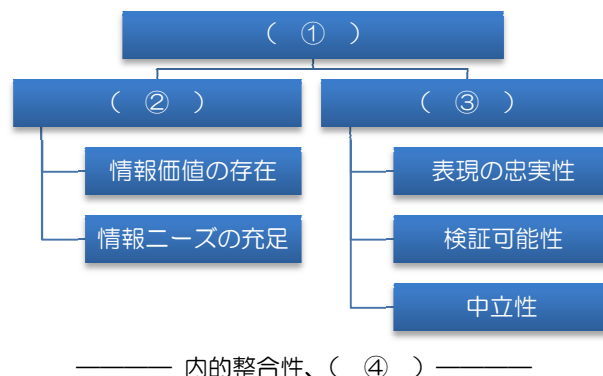
テーマ	会計理論と会計基準（Ⅲ）、利益測定と資産評価の基礎概念（Ⅰ）				
学籍番号					氏 名

1. 企業会計原則の一般原則を 7 つ挙げてください。

一般原則一	真実性の原則	一般原則二	正規の簿記の原則	一般原則三	資本と利益の区別の原則
一般原則四	明瞭性の原則	一般原則五	継続性の原則	一般原則六	保守主義の原則
一般原則七	単一性の原則				

2. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・ 企業会計原則で最上位におかれているのが企業会計の「真実性」であるのに対し、概念フレームワークで最重視されるのは、会計情報の（ ① ）である。
- ・ 討議資料「財務会計の概念フレームワーク」では、（ ① ）を持つために会計情報に求められる質的特性のなかで、会計情報が利用者の意思決定にとって有用か否かを直接的に判定するための最も基本的な特性として（ ② ）と（ ③ ）を挙げられているまた、（ ① ）の階層全体を支える一般的な制約となる特性として内的整合性と（ ④ ）を挙げている。これらの質的特性の関係を図に示すと次のようになる。



- ・ （ ② ）と（ ③ ）の間には、しばしば対立関係が生じやすく、（ ② ）が高い情報は、（ ③ ）が低い場合が多い。このような関係を（ ⑤ ）関係とよぶ。
- ・ 収益と費用は、企業活動に伴って連続的・反復的に生じているから、両者の差額として利益を測定するには、個々の収益と費用の計上時点を特定しなければならない。この判断は、収益と費用がいつ生じたものとして認識するかを決定するという意味で（ ⑥ ）の問題とよばれる。これに対し、認識された収益と費用に金額を割り当てる側面は、（ ⑦ ）の問題とよばれる。
- ・ 収益と費用の（ ⑥ ）に関連する現金の収支の時点におく会計を（ ⑧ ）会計とよび、経営活動の成果と関連する重要な事実の発生時点におく会計を（ ⑨ ）会計とよぶ。

①	意思決定有用性	②	意思決定との関連性	③	信頼性
④	比較可能性	⑤	トレードオフ	⑥	認識
⑦	測定	⑧	現金主義	⑨	発生主義